

平成29年度第6回技術委員会（準備書第2回審議）及び追加提出の意見に対する事業者の見解

No.	区分	委員名	意見要旨	事業者の説明、見解等要旨
1	大気質	片谷委員長	<p>【第2回審議】</p> <ul style="list-style-type: none"> 準備書P4-1-56に大気質の予測結果が記載されていて、二酸化窒素の寄与率が56.3%という数字が出ている。濃度としては十分低く、健康被害の問題となる数字ではないが、現況値と比べると大幅な上積みになるので、それを最大限低減するように努めるといった趣旨の記述をお願いしたい。アセス図書は住民の方々に安心していただくものである。最大限下げる努力をするという趣旨が盛り込まれることが住民の方々の安心に繋がるかと思うので、その辺を考慮して書き加えること。 	<ul style="list-style-type: none"> 書き方を見直して修正する方向で検討します。 <p>【事後回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> 工事中の建設機械の稼働に伴う大気質への影響については、一時的なもので濃度も十分低いものの、影響を最小化するように最大限低減に努めます。準備書P4-1-59「2）環境の保全に関する目標との整合性に係る評価」に、環境保全措置により低減を図る旨を記述しています。
2	騒音 振動 低周波音	塩田委員	<p>【第2回審議】</p> <p>資料1別紙2の完成予想図を見ればわかるが、周辺には騒音とか振動とか低周波音に影響を与えることは無いと思う。だからと言って、今回指摘したようなことをないがしろにしているということではない。騒音・振動・低周波音について、影響がないにしても内容自体の信頼性が疑われることが無いように、しっかりやってほしい。回答を踏まえて修正をお願いしたい。</p> <p>(片谷委員長)</p> <ul style="list-style-type: none"> 同じ単語が別の意味で使用されるといったような事態は最も避けていただきたい点なので、その辺の整理はしっかり確認していただいて、紛らわしい部分があれば修正をすること。住民に対してわかりやすい図書が最も重要なので、評価書に向けて全体のチェックをもう一度していただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 御指摘のとおり修正してまいります。
3	水象	鈴木委員	<p>【第2回審議】</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料1別紙2を拝見する限りでは、緑化率はとても20%のようには見えないが、これはまだ決まった案ではないからという理解でよろしいか。最終的には20%になると考えてよろしいか。 	<ul style="list-style-type: none"> 道路沿いの植栽は変化していくことになると思います。緑化率は21%以上は確保するというので、プレゼンを受けております。
4	水象	梅崎委員	<p>【第2回審議】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地下水の件で、透水のための止水壁のほか、耐震のための基礎杭を打たれるかもしれないが、そういった事はいつごろははっきりするのか。 <p>(片谷委員長)</p> <ul style="list-style-type: none"> 杭がどうなるのかとか、地下水に直接関わるようなことも現時点でまだ決まっていないということか。 決まった段階で工法による地下水に与える影響を検討していただき、事後調査もまとめて一回という形ではなくて、出来たところから細分化して提出していただいた方がタイムリーに確認できる。委員会に事後調査の報告が上がってくれば、対応方針の助言をすることができると、できるだけタイムリーに報告を上げていただくようお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 本設計に入るのは来年4月からになります。それより前に事業者との協議があるので、協議の中でこちらの希望は述べられると思います。 準備書のP6-14の事後調査をご覧くださいと思います。工事中的の影響に関する事後調査の計画を下段の表6.2.5にお示ししてございます。これを見ていただきますと、わさび田の水位と地下水位観測と並べて採用する工法が地下水位に与える影響を検証するということを盛り込んでございます。実際に工法が決まってくるのは、環境影響評価手続の後になりますので、事後調査の中でその工法を検討し、ご報告するような形になろうかと思えます。
5	水象	富樫委員	<p>【第2回審議】</p> <ul style="list-style-type: none"> 準備書のP4-7-13に、排水に頼らない対策を行うと記載されているが、実際にどういった方法があるのか具体的に説明をお願いしたい。 準備書のP4-7-6の図4.7.3を見ると、安定した湧水期というのが概ね2月～3月末までとなる。可能であれば、掘削の時期をこの時期にしていれば、余計な排水処理をしなくても済むことになる。ただし、一方で真冬の寒い時期ですから、コンクリートの品質管理というのは別途対策が必要になってくる。地下水への影響については、一時的に回避できれば施工後には元に戻るの、ピットの施工時期を2～3月に計画するような配慮ができるのであれば、そのようにしていただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 今わかっているのは掘削を少なくするために、プラットホームを3階に設けてあります。現在のところ2m掘削することになっておりますので、これから設計の協議の中で、掘削をなるべく少ないようにするよう提案をしていきたいと思えます。 今後の事業者との協議の中でそのように提案していきたいと思えます。
6	水象	富樫委員	<p>【第2回審議追加意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> 水象「地下水」保全のための最深部の掘削時期への配慮に対応し、準備書P4-7-13(3)掘削方法、P4-7-15の表4.7.9中の適切な掘削方法の検討、P4-7-15(2)環境保全に関する目標との整合性に係る評価の各記述について、追加の説明をすること。 	<p>【事後回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ごみ処理施設のごみピットは地下式が一般的であり、建設の際には地下10m以上の掘削を行うことが多くあります。本計画では、ごみピットを地上式とすることで、掘削深の最小化を図っています。掘削は、建屋の基礎部分は最大で2m程度、ごみピット・灰ピット部分は3m程度の掘削となる見込みです。 現段階では、掘削壁面の保護と湧水抑制策として止水矢板の使用が想定されます。掘削底面の対策については未定ですが、地下水位及び地下水質への影響を検討した上で工法を選定します。 具体的な工法は実施設計の段階で固めるため、評価書においても具体的な工法はお示しできませんが、地下水の圧力等の検討（透水試験及び観測井の調査等）を行い、地下水位への影響が小さくなるよう十分配慮して工法を決定します。 採用する具体的な工法と検討内容については事後調査計画書に記載し、報告いたします。
7	地形地質	大窪委員	<p>【第2回審議】</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業対象地域に活断層が通っていないということだが、そのことは文章として説明していただく必要がある。丁寧に文言として説明していただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 御指摘のとおり修正してまいります。 <p>【事後回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> 活断層に関する記述について、資料2-1に示すように記述を追加いたします。

No.	区分	委員名	意見要旨	事業者の説明、見解等要旨
8	地形地質	富樫委員	<p>【第2回審議】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活断層に関連する内容について、基本的などの地質図においても断層活動の証拠があったところだけしか記載されていない。要するに、表示がなければそこには断層が無いということの証明ではない。したがって、記載するとすれば、知られている活断層は無いということになる。実際は存在しないわけではないので、特に耐震性については十分な注意をしていただきたい。国内でも最も危険性が高く、今後30年の間に15%あるいは30%という確率で直下型地震が起こると予想されている場所なので、耐震性についてもしっかりと配慮することとも文書で記載いただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・記述については十分注意して記載します。 ・耐震性については、耐えられる構造とするよう事業者と調整してまいります。 <p>【事後回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新ごみ処理施設の基本方針に「災害に強い施設」を掲げ、耐震性の確保し災害に強い施設とする計画です。（準備書P1-21参照） ・「10.2予測及び影響の評価」の「3. 供用時における地下水の取水による影響」に耐震性の確保についての記述を追加します（資料2-2）。
9	地形地質	富樫委員	<p>【第2回審議】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準備書P2-3-13の注目すべき地形地質について、日本の地形レッドデータブックというのは、数ある重要な地形の中で危機にあるものだけをピックアップした資料である。このままの文章だと保存すべき地形は無いと読み取られてしまうが、正しくは保存すべきものとして記載されているものは無いということである。ここは犀川、高瀬川、穂高川の三川合流地点として非常に著名な場所でもあるし、景観的にも、非常に注目すべき地形地質でもあるので、そのことは是非一言加えていただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・記述を追加する方向で検討させていただきます。 <p>【事後回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価書ではP2-3-13に三川合流地域に関する記述を追加します。また、日本の地形レッドデータブックに関する記述を改めます（資料2-2）。
10	土壌汚染	小澤委員	<p>【第2回審議】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準備書P4-8-8、9について、ダイオキシン類の長期濃度による予測ということで、大気中の濃度から土壌への寄与を算出しているが、土壌に対する寄与となると、最大値からの上乗せ分という考え方も平均値からの上乗せ分という考え方が合理的ではないか。そうすると一般大気中のダイオキシン類の濃度が実際に測っている濃度からすると、下がってくるということから寄与割合が高くなる。 ・最大値として採用されている0.046pg-TEQ/m²という数字がどこから出てきた数字なのか、表現的には現地調査の結果から出てきていると書いてあるが、どこから出てきたか分からない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・最大値より平均値を使った方が安全側ということで、御指摘のとおりだと思います。評価書の段階ではそこを直すか、あるいは両方併記する形で修正する方向で検討させていただきます。 ・調査の結果から出ていることは間違いなのですが、それぞれの調査結果をどう扱っているのかすぐにお答えできないので、確認させていただいて後日御回答します。 <p>【事後回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全側の予測という観点から、ご指摘の通り平均値を使った予測が適切であると考えます。平均値を使った予測結果を資料2-3に示します。評価書では、大気中の濃度を各地点それぞれの年平均値とし、そこからの上乗せ分ということに、予測方法を変更致します。また最大着地濃度地点については、全地点の各年平均値の平均の値を用いることと致します。なお、最大値として採用した0.046pg-TEQ/m²はご指摘通り誤りであり、正しくは0.023pg-TEQ/m²でした。
11	植物	大窪委員	<p>【第2回審議】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準備書の資P1-5-5の、文献調査による植物リストの引用された文献のリストについてですが、注2)④「長野県版レッドリスト（動物編）2015」となっているが、植物についてのリストなので、ここは「（植物編）2014年」である。 ・その下の⑥の文献の中に脊椎動物のリストが入っているが、これはここには入らない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・御指摘のとおり記述の間違いですので修正させていただきます。
12	植物	大窪委員	<p>【第2回審議】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準備書P4-11-4について、植物相についての結果は湿性植物や路傍雑草など、植物の大まかな立地の特性の種はこういうのが出現していたというような説明はあるが、植物相を説明する上での植物地理学的な記載がなく、淡々と表記されているだけで、地域としての植物相の説明にはなっていないので、その辺り今後修正いただきたい。 ・植生についても社会学や植生学に基づいた説明が全くない。希少種の生息地としての植生の評価をする時に、残されている植生の位置付けの特徴の説明がないまま表現されているのは適切ではないので、工夫して説明、記載していただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・御指摘はごもっともだと思いますので、記述については修正する方向で検討し直して参りたいと思います。 <p>【事後回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準備書P4-11-4の植物相の記述について、地域の植物相に関する説明を追加します。また、植生についての記述についても、現在の植生の位置づけの特徴に関する説明を追加します（資料2-4）。
13	植物	佐藤委員	<p>【第2回審議】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非公開資料P資1-2～5の調査した場所を表現していただきたい。調査したけれども、確認できなかった場所も記載いただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・可能な範囲で、植物の踏査ルートを表示します。 <p>【事後回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料2-5に植物の踏査ルートを示します。調査時のGPSのログデータを表示したものです。踏査していない場所がありますが、これは無植生の場所（グラウンド、舗装、砂地など）、他事業所や民家の敷地内、耕作中の農地などです。
14	動物	中村寛志委員	<p>【第2回審議】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準備書P5-11の総合評価において、コウフオカモノアラガイの保全の方法は生息地を改変せずに保全することを検討すると書いてあり、困難な場合は個体の移植によるとある。できたらこれは残しておくように検討いただきたい。移植の場合はよく似たカタマメマイマイがいるような場所へ持っていくのがいい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平面配置計画では、当該の場所は除雪の際の雪置き場としてありますので、残せると思います。
15	動物	中村寛志委員	<p>【第2回審議】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非公開資料P2-30にコウフヒメオカモノアラガイとある。計画地内にはコウフオカモノアラガイで、記載されているヒメオカモノアラガイは別の種である。コウフモノアラガイと混同しているのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・正しくはコウフオカモノアラガイです。P2-30はヒメを取る方向で修正します。
16	生態系	大窪委員	<p>【第2回審議】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準備書P4-13-5には典型的な場所の生態系の模式図が示されているが、これも横並び的に書かれているだけなので、中身が分かる書き方が必要である。 	<p>【事後回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準備書P4-13-3～4-13-4の環境類型区分の記述について、生態系としての位置づけに関する説明を追加します（資料2-6）。

No.	区分	委員名	意見要旨	事業者の説明、見解等要旨
17	生態系	陸委員	<p>【第2回審議】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準備書P4-13-5の生態系の模式図について、少しシンプルすぎる。もう少し複雑な線が入ってくると思われるので、もう少し線を増やして食物関係が全体として連携して繋がっていることが分かる図にすること。 ・準備書P4-13-4の相互関係の説明について、生態系の単位をいくつかに分けてあるが、単位を超えた生物間の関係があるということを例を挙げて説明するとより現実に近づくと思うので、御検討をお願いしたい。 	<p>【事後回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準備書P4-13-4の相互関係について、記述を追加します。 ・準備書P4-13-5の生態系の模式図について、生態系の区分をまたぐ相互関係をもつ動物の代表として、カモ類、コウモリ類を追加します（資料2-6）。
18	景観	片谷委員長	<p>【第2回審議】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・屋根が曲線を描いているのは景観上の配慮としての提案なのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・右側の安曇野ランドの屋根もカーブを描いております。また、既存の焼却施設もカーブを描いておりますので、提案しました業者の方で同じ形で提案してきたと思われます。
19	温室効果ガス	片谷委員長	<p>【第2回審議】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準備書P4-17-8の表について、ここでは削減率35.2%という数字が記載されているが、要約書にこの削減率の記載がない。要約書P4-17-5に非常に似ている表があるが、削減率がない。これは非常に問題なので、これは確認して修正していただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・記述の間違ひがありますので修正させていただきます。